

熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2016

県が新たに育成したナス「熊本VE02」の特性



「熊本VE02」

「ヒゴムラサキ」

写真1 果実外観

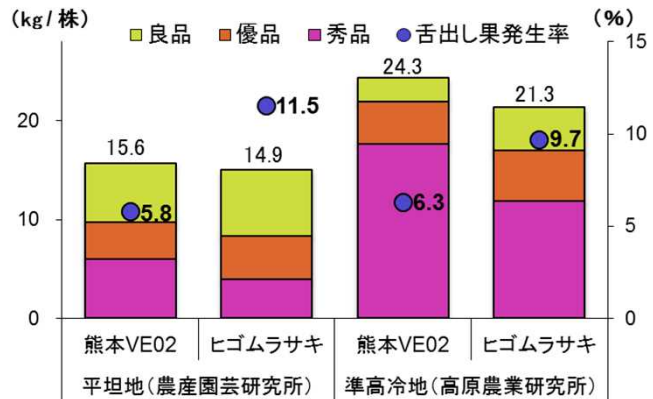


図1 可販果収量と舌出し果発生率

問 研究のねらいは？

答 ナス「ヒゴムラサキ」は弱光や高温等によって果皮色が薄くなる傾向にあり、舌出し果の発生が多いことが課題となっています。そこで「ヒゴムラサキ」の良食味を維持し、果皮の着色性に優れ、舌出し果の発生が少ない品種を開発しました。

問 優れている点は？

- 答
- ① 草姿はやや開張性で草勢は強く、節間長は「ヒゴムラサキ」よりやや長く、莖径、着花数は同程度です。
 - ② 果皮色は「ヒゴムラサキ」より着色性に優れ（写真1）、果形、果肉の軟らかさ及び食味は「ヒゴムラサキ」並で優れています。
 - ③ 可販果収量は「ヒゴムラサキ」より多い傾向であり、秀品率が高く、舌出し果の発生は少なくなります。

問 栽培するうえで注意する点は？

- 答
- ① 平地地では夏期の高温の影響で果実品質が低下しやすいため、準高冷地の夏秋栽培に適しています。
 - ② 「ヒゴムラサキ」同様、果皮の擦れや押し傷みが発生することがあるので、果実の取り扱いに注意して下さい。